

1988年 → 1998年 → 2008年  
「日本の家族20年変化」調査結果発表

# 「保温家族」の時代へ。

家族ならではの心地よさを意識的に保持する日本の家族。

- 意識して家族の絆を強めるようなことをするほうがよい。

夫：1988年37.3% → 1998年47.3% → 2008年56.0%

妻：1988年36.4% → 1998年39.8% → 2008年48.5%

- 家族全員でテレビを見る。

1988年78.4% → 1998年89.2% → 2008年91.7%

博報堂生活総合研究所は、日本の家族の現状とその行く末を見極めることを目的に、1988年より10年ごとに、家族に関するアンケートを同一質問で実施し、日本の家族について研究を重ねてまいりました。この度、2008年6月に実施した「家族調査 2008」の分析結果がまとまりましたので発表いたします。

## 【調査結果概要】

収入の多寡で主導権争いをするのでも、自律した個の集合体として互いを必要以上に尊重するのでもない。空気のような存在である“安息の場としての家族”を、悩んだり迷ったりしながら、それぞれが何とか維持しようとメンテナンスしているのが、今の日本の家族の現状のようです。家族ならではの心地よさを意識的に保持する「保温家族」へと向かっています。

- 1 意識して家族の絆を強めるようなことをするほうがよい。

夫：37.3% → 47.3% → 56.0%、妻：36.4% → 39.8% → 48.5%

- 2 休日は出来るだけ家族一緒に過ごす方がよい。

夫：73.7% → 71.6% → 78.5%、妻：73.4% → 63.3% → 69.0%

- 3 家族の都合よりも自分の都合を優先する方がよい。

夫：28.3% → 24.3% → 16.8%、妻：8.9% → 10.3% → 6.3%

- 4 家族に迷惑でも個人が納得する生き方をする方がよい。

夫：18.1% → 21.3% → 18.0%、妻：18.1% → 17.5% → 12.8%

- 5 恒例の家族の行事、イベント：

「子供の誕生日」1998年78.3% → 2008年86.3%、「夫の誕生日」1998年69.8% → 2008年75.2%、

「妻の誕生日」1998年62.6% → 2008年71.0%

- 6 家族全員でテレビを見る。

78.4% → 89.2% → 91.7%

本件に関するお問い合わせ先

博報堂生活総合研究所 吉川 TEL：03-6441-6450

博報堂広報室 西尾・大野 TEL：03-6441-6161

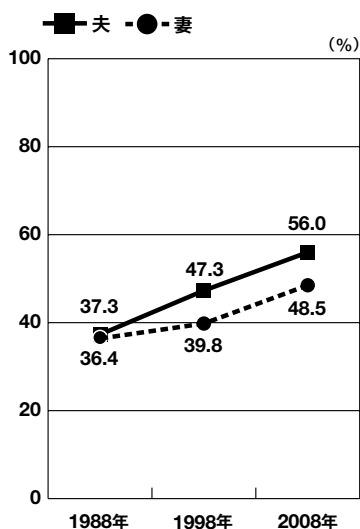
# [20年変化から見た日本の家族]

## ●高まる家族維持意識

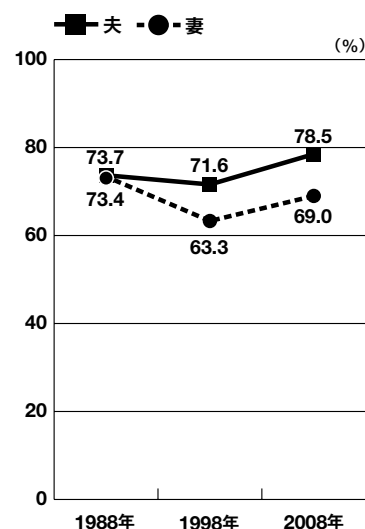
「意識して家族の絆を強めるようなことをする方がよい」は、20年間で夫は20ポイント近く、妻は10ポイント以上上昇。

「家族の絆を強める」ことへの意識は、20年前は夫婦ともに36~37%でほぼ同じレベルでしたが、この20年間で夫は10年ごとに10ポイントずつ上昇し、56.0%へ。妻も1988年から1998年は3.4ポイントの上昇でしたが、1998年から2008年の10年間では、夫と同様、約10ポイント上昇し、48.5%まで伸びました。夫婦ともに家族を維持しようという意識が高まっている事がわかりました。

意識して家族の絆を強めるようなことをする方がよい



休日は出来るだけ家族一緒に過ごす方がよい



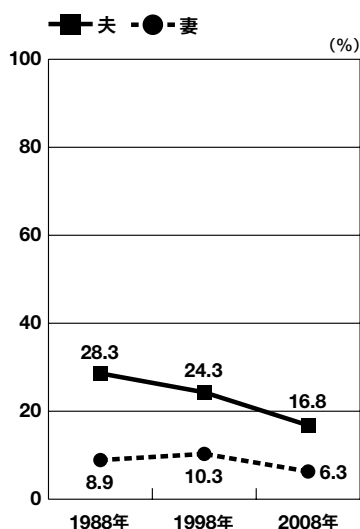
## ●自分よりも家族

「家族の都合より自分の都合を優先する」夫は10ポイント以上ダウン。

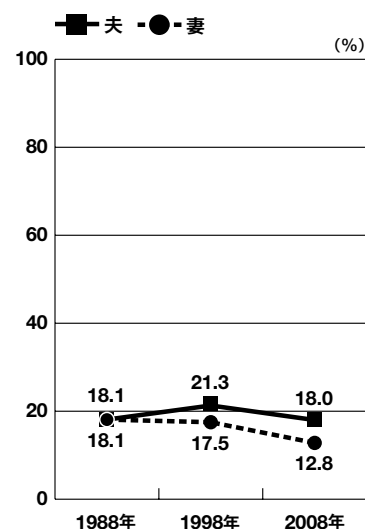
「個人が納得する生き方」では妻が5ポイント以上ダウン。

「家族の都合よりも自分の都合を優先する方がよい」では、夫が28.3%から16.8%と11.5ポイントもダウン。妻も1998年までは若干伸びていましたが、2008年では10.3%から6.3%へと4ポイントダウンしました。また、「家族に迷惑でも個人が納得する生き方をする方がよい」では、夫が1998年に若干伸びたのが、2008年では21.3%から18.0%とダウンし、1988年レベルに戻りました。妻は18.1%から12.8%と5ポイント以上ダウン。ここでも夫婦ともに自分よりも家族を優先しようとしている意識が見られます。

家族の都合よりも自分の都合を優先する方がよい



家族に迷惑でも個人が納得する生き方をする方がよい

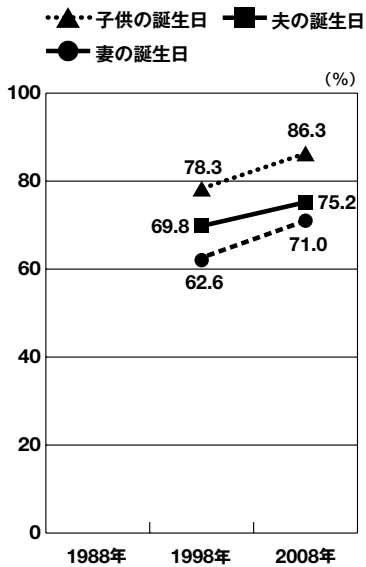


## ●家族維持イベントの増加

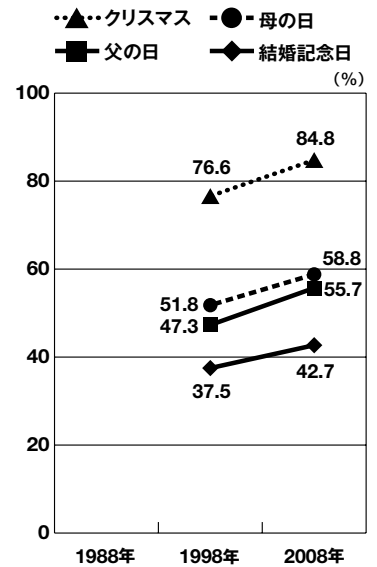
「子供の誕生日」86.3%に続き、「夫の誕生日」「妻の誕生日」も70%以上へと上昇。

毎年恒例の家族の行事・イベントを聞いたところ、家族の誕生日はそれぞれ10年前よりも、子供8.0ポイント、夫5.4ポイント、妻8.4ポイント上昇しました。さらにクリスマス、父の日、母の日、結婚記念日なども上昇しており、家族であることを確認するイベントが増加している事がわかりました。

毎年恒例の家族の行事、  
イベント①



毎年恒例の家族の行事、  
イベント②

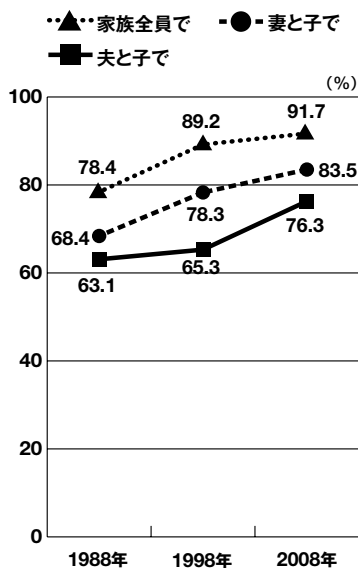


## ●しっかりと健在する家族のお茶の間

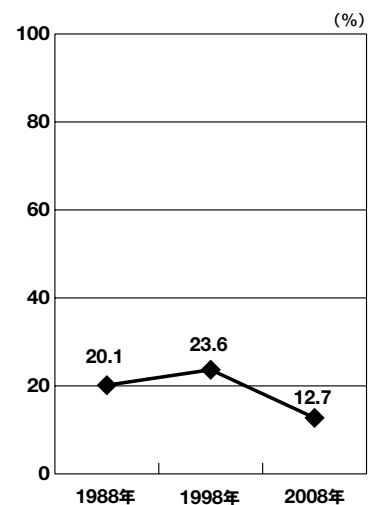
「家族全員でテレビを見る」は91.7%と20年前より10ポイント以上上昇。

「家族でのテレビ視聴」(視聴頻度:「よく見る」と「見る」を足し上げたもの)についても「家族全員で」が10ポイント以上、「妻と子で」は15ポイント以上、「夫と子で」も10ポイント以上、それぞれ上昇しています。また、子供専用で持っているテレビも、前回の98年調査時では若干上昇していましたが、この10年で見ると10ポイント以上もダウン。家族でテレビを見る行動が堅調であり、団欒の場としてのお茶の間がまだまだ健在であることが伺えます。

家族でテレビを見る  
頻度〈見る〉計



子供専用で持っているもの〈テレビ〉



## 参考資料①「家族調査」調査設計

■ 調査地域 首都 40km 圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県）

■ 調査時期 2008 年 6 月 12 日～7 月 7 日  
1998 年 1 月 8 日～2 月 2 日  
1988 年 8 月 3 日～8 月 22 日

■ 調査方法 訪問留置自記入法

■ 調査対象 妻の年齢が 20 歳～59 歳まで、夫婦が同居しているサラリーマン世帯  
※対象条件は、夫がサラリーマンであること。子供の有無は問わない。

■ サンプル数	調査年度	妻 20～29 歳	妻 30～39 歳	妻 40～49 歳	妻 50～59 歳	サンプル数
	2008 年	57 世帯	208 世帯	173 世帯	162 世帯	600 世帯
	1998 年	146 世帯	323 世帯	422 世帯	309 世帯	1,200 世帯
	1988 年	149 世帯	446 世帯	366 世帯	223 世帯	1,185 世帯 ※

※不明 1 世帯

## 参考資料② 世界と比較した日本の家族「4カ国家族比較調査」

日本の家族をより理解するために、各国400サンプルではありますが海外4カ国比較調査を行いました。その結果、日本は他国と比較して特徴的な突出した項目がないことがわかりました。あえて特徴を述べるとすれば、「血縁や結婚だけでは家族とはいえず、共にする時間や経験の積み重ねがあって初めて家族になれると思う」という項目と「家族における自分の役割について悩みや迷いがある」という項目が高かったことでしょうか。また、「家庭は安息の場というよりも、

自由な活動の場である」という項目に関しては、4カ国中最も低い結果となりました。裏返せば、日本の家族は癒しの場になっているのかもしれませんが。データからは、日本の家族は、他国に比べ、突出した項目が少なく、家族を束ねるはっきりとした軸が見えません。一緒にいることにより、じわじわと家族になっていくような、空気のような存在、しかしそんな中、家族における自分の役割に対して悩みや迷いを抱いている、といったところが日本の家族の特徴といえるようです。

(%)

	平均	日本	アメリカ	スウェーデン	中国
私は家族の中でリーダーシップを発揮している	64.8	51.8	76.8	67.5	63.3
私は家族によって束縛されている	41.8	29.8	70.3	45.8	21.5
人は誰もが家族を持つべきであると思う	66.4	48.8	71.5	51.0	94.5
家族は最優先して取り組むものであると思う	81.3	62.0	88.8	86.5	87.8
離ればなれに暮らしていても、家族は家族であり続けることができると思う	64.9	78.5	44.8	50.8	85.5
血縁や結婚だけでは家族とはいえず、共にする時間や経験の積み重ねがあって初めて家族になれると思う	59.1	68.8	68.8	49.8	49.0
家族の中で、基本的な価値観が共有されていると思う	74.1	66.0	82.5	84.5	63.3
家族は、お互いが向上するためにあると思う	86.4	65.8	88.8	92.3	98.8
家族の中で、達成すべき目標や夢が共有されている	68.3	47.0	75.0	75.8	75.5
家族は、いろいろな考えを持った多様な人の集まりであるべきと思う	72.4	58.8	76.0	83.5	71.5
子供は生まれたときから、独立したひとりの人間であると思う	73.1	56.5	84.0	91.5	60.3
家事は外部のサービスにゆだねず、家族でやることに意味があると思う	45.6	49.3	41.0	24.0	68.3
働くことに関して、家族からの評価を重視する	46.9	28.8	42.5	43.3	73.0
家庭は安息の場というよりも、自由な活動の場である	36.4	16.8	26.8	35.8	66.5
家族における自分の役割について悩みや迷いがある	23.3	37.8	17.5	18.8	19.3
子供は親の老後の経済的な面倒を見る方がよいと思う	28.4	25.8	18.8	3.8	65.5
夫婦はどんなことがあっても離婚しない方がよいと思う	27.3	31.5	12.0	5.0	60.5
夫も家事や育児を優先すべきだと思う	61.4	43.5	64.8	79.5	58.0
家族共有の趣味がある	63.8	42.0	77.8	82.3	53.0
友達のような親子関係がよいと思う	54.6	24.3	74.3	70.0	49.8
友達のような夫婦関係がよいと思う	57.3	39.5	84.5	62.5	42.8
夫婦が別の姓を名のってもかまわないと思う	37.4	33.0	39.3	77.5	—
家族とよくおしゃべりする方だ	70.8	61.5	75.8	84.0	61.8

## 「4カ国家族比較調査」調査設計

- 調査対象国 日本、アメリカ、スウェーデン、中国
- 調査時期 2008年3月4日～14日
- 調査方法 インターネット調査
- 調査対象 20歳～59歳の男女で、以下に当てはまる人
  - 同居するパートナーがいる  
(パートナー：法的な婚姻関係、パートナーシップにある人、事実婚、同棲、相手の性別は不問)
  - 同居するパートナーはいないが、同居する子供がいる
- サンプル数 1,600サンプル (各国400サンプル×4カ国)
- 割付条件 性別×年代＝計8セル 各セル50サンプル